

平成 26 年度第 10 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「観察と実験から霞ヶ浦の地形や地層の成り立ちを学ぼう！」を実施しました。

開催日時：平成 26 年 11 月 15 日（土）

開催場所：午前 潮来市島須・地層観察

午後 潮来市大生 茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター

参加者：23 名

今回は霞ヶ浦自然観察会初の地層をテーマにした観察会。講師は茨城大学の山口先生。結果を先に言うと驚きの連続，大人から子どもまで大満足のとても楽しく学べる観察会でした。

この日はすがすがしい秋晴れ。午前中は県民水郷の森に近い砂取場の跡に地層が露出した場所で観察を行いました。まず山口先生から地層を見るときには（１）地層の形，並びを見る。（２）地層に含まれる化石を調べる。（３）地層の化学の３つの視点があることを教えていただきました。つねに地層を眺めながら，どのような水の流れがこのような地層を作ったかを考えるそうです。レクチャーを受けて，早速，ねじり鎌を持って地層を慣らして地層の模様を観察しました。その後は簡単に作れる土はぎ取り標本作製したり，先生が用意したブンブクウニの這った跡のはぎ取り標本を観察したりと，あっという間に時間が過ぎていきました。実際に何の生き物によるものか分かりませんが生痕化石も見ることができました。観察した場所は 13 万年ほど前の地層だそうで，みな 13 万年前の昔に思いをはせました。

午後は茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターに移動して，どのように地層ができるのか実験装置を使って学びました。川の流れて地層ができる実験では，同時に荒くて重い粒と小さく軽い粒を流しても，軽い粒がすぐに一面にふわふわと広がるのに対し，重い粒はなかなか流れず，限界にくると耐えきれず雪崩のように流れていくため，たまるタイミングが違い，筋ができることが分かりました。またペットボトルを使った，波打ち際や干潟にウェーブリップと呼ばれる“でこぼこ”ができる実験，液状化の実験，さらに深海の水の流れを観察する実験など盛りだくさんの内容でした。実験を観察しながら，様々な質問にわかりやすくお答えする山口先生にみな先生のファンになったようでした。

山口先生，参加者のみなさん，パートナーのみなさんありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人



地層を前に熱心に御説明
してくださる山口先生。
参加者のみなさんも真剣に
お話に聞き入ります。



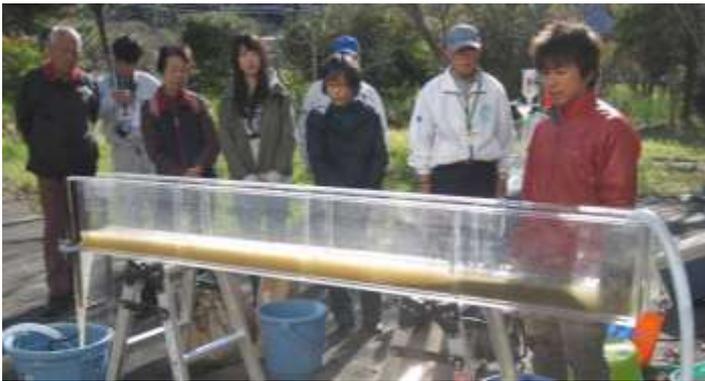
土はぎ取り標本作製中



地層の様態が出てきました。



生痕化石です。



地層ができる様子がよく分かります。

